

“学校給食費無償化”も“給食にゲノム編集の食材を使用しない”も検討しない鎌ヶ谷市？？？

——子どもの健やかな成長を願う市長であって欲しい——

「学校給食の無償化」と「ゲノム編集の食材を給食に使わないよう」に清水市長に申し入れましたが残念ながら前向きな回答を得られませんでした(2019年9月3日・2020年2月10日)。

千葉県には54の自治体がありますが小中学校の給食費無償化は7町で、一部補助が19市町村で行われています。世田谷区では2019年10月から学校給食の一部無償化を始めています。又、いすみ市では学校給食でのお米は有機米100%を実現しています。お隣韓国のソウル市では2021年には小・中・高校の給食費の完全無償化と有機食材での給食が実現されます。

“子どもの育っていく権利”からも無償化の方向を探って欲しく要望しましたが清水鎌ヶ谷市長は、「学校給食法で施設整備費と人件費は自治体負担だがそれ以外は保護者負担です。光熱費などは市が負担し食材費は保護者に負担してもらっています。財政的負担もあるので引き続き保護者に負担していただく」と前向きな検討もない回答です。給食費無償化(普遍的福祉)の学校教育における意義が分かっていないようです。

クリスパーキャス9の技術が開発されてから急速にDNAを切断する遺伝子操作のゲノム編集で肉質の多い豚・真鯛、除草剤耐性のナタネ、小麦などが作られだしています。2019年10月1日から日本でも解禁になりましたが遺伝子組み換えの農産物とは違って規制がありません。EUでは規制するとの判決が出ています。オフターゲットなどが起こり食の安全性は証明されていないので鎌ヶ谷市の学校給食では遺伝子組み換え食材と同じようにゲノム編集食材を使わないようにと申し入れました。鎌ヶ谷市清水市長からの回答は「食品表示がなくゲノム編集によるものかどうかの判断は非常に困難であり給食食材として使用しないと決定できる段階ではない」との事。これでは分からないから子ども達に食べさせてしまうと言っているようなものです。「生活クラブ」さんは“ゲノム編集生産物の取り扱いはしない”とはっきり表明しています。天笠さんの説明ではゲノム編集の産物は特許申請しているからその動向を調べればゲノム編集の可能性がある地域の産物かどうかは分かるとの事です。要は子ども達に遺伝子操作のゲノム編集した食材を食べさせないで安心な食材を提供しようと思うかどうかです。

鎌ヶ谷市の子どもの食の安全を守るのは、大人であり学校、自治体の首長のはずです。国の動向を注視するだけで主体性のない自治体では市民の命・生活を守れません。

未来を担う子ども達が健やかに元気に育っていくよう「ゲノム編集の食材は学校給食の食材として使わない」「学校給食の無償化」を実現させていきましょう。

「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫 047-445-9144

*活動報告 HP に掲載「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。